



だより



支援連携だより R8 第3号
令和8年 9月 11日
小田原支援学校 支援連携部

今回は、夏休みに行われた「夏の公開研修」と「教材教具展」についてご紹介します。

【夏の公開研修会】

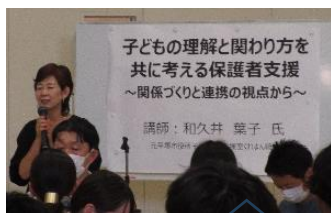


○今年度の小田原支援学校夏の公開研修会は、昨年度に引き続き、

まるごとインクルーシブ③～「みんながハッピー」を考えよう～をテーマとして、見て、聞いて、触って、感じる体験を盛り込んだ2日間を実施しました。

7月23日（木）午前	●「子どもの理解と関わり方を共に考える保護者支援 ～関係づくりと連携の視点から～」 講師 元平塚市役所子ども発達支援室くれよん統括 和久井 葉子 氏 共催 小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町自立支援協議会子ども部会
7月23日（木）午後	●インクルーシブマインドを育む授業の紹介 講師 小田原支援学校教諭 渡邊隼人 先生
7月24日（金）午前	●「虹色なこどもたちと自分理解」 講師 明星大学教育学部教育学科教授 星山 麻木 氏
	●インクルーシブマインドを育む授業の紹介（展示・解説）

○2日間の様子



和久井葉子先生の講演
「子どもの理解と関わり方を共に考える保護者支援 ～関係づくりと連携の視点から～」



インクルーシブマインドを育む授業
利き手ではない方でICカードを入れてみよう体験



星山先生の講演
「虹色なこどもたちと自分理解」



○参加者の声



具体的な話を聞くことができ、参加型授業を行ってくださりわかりやすかったです。いろいろな場所で実施できることがふつう になれば良いなと思いました。

出来ないことを探しがちになってしまいが、そうではなく、できることを見つけて強みを伸ばしていくことが大切だと学びました。

2日間の研修を通して、障がいのある子どもたちの認知、感覚、運動特性を学び理解をすることができました。普段関わっている子どもたち一人ひとりを思い浮かべながら、学んだことを支援・指導に活かし子どもも大人もハッピーな日常を送れたらと思いました。また、インクルーシブ教育は、幼少期からの相互理解が大切で、子どもたちと考えながら進めていくことでみんなが認められる社会づくりの礎を実行していきたいと感じました。

【教材・教具展】

「今日から使える！支援のヒント大展示」の様子の一部を紹介します！

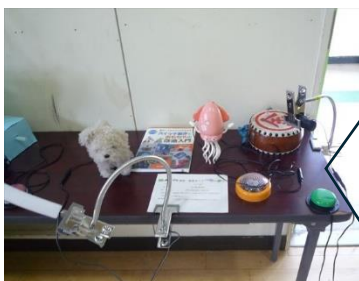
校内教員の自作教材・教具展



【スケジュールカード】

1日の流れを教科（マーク・文字）・場所で示したり、より細分化された個人用のスケジュールボードを使用したりして見通しを持てるようにしています。

小田原支援学校の教員が日々の指導に使用している教材・教具を展示しました。この他にも一人ひとりの教育課題に応じて様々な工夫がなされた教材・教具を展示しました。



【スイッチ教材】

押したり触れたりする操作によって音・光・動きが出ます。

肢体不自由部門のさまざまな場面で使われていて、少しの操作をきっかけで大きな反応を体験できるツールです。



【大型教材】

知的の小学部でおはなしや生活単元学習で使った「段ボールハウス」

なかに入り、ブラックライトを当てると光って見えるようになっています。児童生徒がリラクセスできるセンサリ－ハウスにもなります。



【作業学習教材】

ハンドメイド班のアイロンビーズ農園芸班の種まき、苗植え用治具です。初めて作業する場合にもできるよう工夫されています。